

第243回 番組審議会

1. 日 時 平成27年6月9日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名
出席委員数 8名 (欠席委員数 2名)

○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)
竹中 陽一 (副委員長)
—以下50音順—
石田 征広
加藤 裕一
菅原 正二
八木橋 伸之
役重 真喜子
吉田 浩次

○ 会社側出席者 (7名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
前田 秀男 (取締役技術局長)
藤原 銀司 (取締役)
工藤 浩 (取締役営業局長)
菊地 十郎 (報道部長)
井上 智晶 (報道部)

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 「FNSドキュメンタリー大賞 異人館の“きせき”
～海に見える喫茶店の防潮堤をめぐる4年間～」

平成27年5月31日(日) 13:30～14:25放送

5. 議事概要

今回は、3月31日に放送した「FNSドキュメンタリー大賞 異人館の“きせき”～海に見える喫茶店の防潮堤をめぐる4年間～」を審議しました。議事の概要は以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ 菊地プロデューサーからの説明

・「FNSドキュメンタリー大賞」は、フジテレビ系列27局が番組制作力向上を目的に作られ、各局が1年に1作品55分のドキュメンタリー番組を制作して出品するもの。今回は、被災地で問題になっている防潮堤の建設をテーマにした。

●井上ディレクターからの説明

・海の良い景観が自慢の宮古市の喫茶店「異人館」の店主・安倍主税さんは、東日本大震災で被災した店を再開したものの店の前に防潮堤が建設されることになった。防潮堤と景観の狭間で揺れる安倍さんの複雑な気持ちを中心に、防潮堤建設をめぐる地元の人たちの声を紹介した。

・防潮堤の建設で何が失われるのか。目に映るものだけではなく、小魚や海藻を取ることができなくなる、生態系も変わってしまうのではないか。なによりも海が見えなくなることは地元の人たちの気持ちの面にも影響があるのではないか。そういった問題を身近に感じてほしいと思い制作した。

●出席した委員からの意見

・バランスのとれた構成で、分かりやすい作りになっていた。

- ・震災直後からの継続した取材がうまく繋がった。
- ・ディレクターの接し方により自然なコメントが引き出せていた。
- ・防潮堤建設は、「仕方がない」と言えば言うほど「仕方がない」と言っているすぐその次に全く逆の思いが画面に見えて、それがテレビの力だと思った。
- ・「安心」と「安全」の両方がある命を守るのであって、物を作って復興というのはいけない。今までのやり方でやっていたのでは復興は中々上手くいかないと教えてくれた番組だった。
- ・なぜあれだけの防潮堤を建設しなければならなかったのか、その経緯を説明してほしい。例えば宮城県は防潮堤についてどのように考えているか、参考例として織り交ぜてもらえればよかった。
- ・震災から4年以上経つがまだいろいろな課題があるので、県内だけでなく全国へも発信し続けてほしい。
- ・東京オリンピックを控え、慢性的な人手不足、人件費や建築資材の高騰など、復興はこれからが大変な時期。今後もいろいろな角度からこの問題を取り上げてほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成27年6月10日(水) 産経新聞 東北版

* 平成27年6月20日(土)午前4時42分から午前4時45分まで

「めんこいテレビ番審りポート」として放送。

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

*次回は7月14日(火)12時より 当会場にて開催予定です。